

## 核データ処理プログラム WG 議事録

日時：2014年11月4日（火）13:30-17:00

場所：JAEA 原科研 研究2棟 221号室

### 参加者

（順不同、敬称略）片倉（長岡技術科学大学）、平岩（木村代理）（東芝）、酒井（NRA）、今野（JAEA）、中堂園（日野代理）（日立）、遠藤（名古屋大学）、多田（JAEA）、千葉（豪）（北海道大学）、奥村（JAEA）、岩本（JAEA）、渡嘉敷（NFI）、山路（MHI）、須山（JAEA）

### 概要

1. 前回議事録が確認された。
2. NJOY-2012 を原子力機構で購入したことが報告された。
3. 多田氏より、国産核データ処理コードシステム **FRENDY** の開発状況の報告があった。現在熱中性子散乱断面積処理の部分を開発しており、来年度、連続エネルギーモンテカルロコード用ライブラリの作成が可能となる予定であるとの報告があった。
4. **FRENDY** システムの公開方法についての質疑があった。原子力機構からは、他のコードと同じように輸出管理等の手続がとられることがアナウンスされた。
5. **FRENDY** 全体の完成を待たず、**PENDF** の作成が出来るのであれば使えるようにして欲しいということ、今後のテスト計算ではユーザーも参加させて欲しいという意見が出された。
6. 千葉氏から、核データ処理コードの他国での開発状況、須山氏からは旧ソ連が開発をしていた核データ処理システム **GRUCON** の紹介があった。これらを受けて、**FRENDY** の国際展開、公開方法に向けての考え方について質疑があった。現在は戦略物資として **FRENDY** の開発のことは国際的には周知していないが、**FRENDY** の開発の進展にともなって、どのように国際展開をはかるのかを考えるべきであるとの意見が出された。
7. 来年からは、多田氏を本 **WG** の正式にメンバーにするべきという意見が出され、その手続をとることにした。
8. 次回も来年度会合を開催することが合意された。開催場所は東京も視野に入れて考えることとなった。

以上